

# ピクトグラムで安全避難

## 知を生かす 地域と大学



足守小での火災訓練で「災害対応ピクトグラム」を掲げる三宅校長＝1月28日、岡山市北区足守



中村俊介助教

「歩いてこちらへ Walk here」掲げられたのは日本語と英語による案内とともに、手を挙げた人と歩み寄る分デザインされている。1月28日、岡山市足守小（岡市北区足守）での火災訓練。文字とマークで行動を促す「災害対応ピクトグラム」が初めて用いられ、指示役の三宅校長が語る。聴こえない子どもたちの児童が次々と集まった。

「ピクトグラム」は言語や人種、障がいにかかわらず、どんな人にも分かりやすいものを指している。一などとして助聴すると、児童からは「進む方向がと目で分かった。火事や災害現場があると安心」といった感想が寄せられた。誕生のきっかけは2016年の夏。

火災現場で聴覚障害者の避難誘導がうまくできなかったとして、岡山市消防署の渡辺規規さん（88）は当時北消防署特別高度救助隊所属「からーびと目」で避難を促す絵文字を作りたい」と相談を受けた。東京五輪・パラリンピックも踏まえ、不特定多数が集まる場所でのNBC（核、生物、化学）災害も想定し提案された。

超高齢社会の中、防災と医療福祉の連携の重要性は高まっており、同科の研究テーマの一つ「ユニバーサルデザインの幅を取り入れ、社会課題を解決しようと引き受けた」。

「災害教育への活用を視野に、20年3月には「歩いてこちらへ」の折り畳み式の簡易版を開発した。岡山市教委に採用され、11月に市立全小中学校

## 川崎医療福祉大医療福祉デザイン学科 岡山市消防局



岡山市消防局中消防署特別救助隊 渡辺敏規隊長

### 全国統一表示目指す

女性に避難を伝える方法に苦慮した際、ヘルメットに記された「消防局」の文字を示し理解してもらった経緯が基になっている。



災害対応ピクトグラムの改善点などを学生らと話し合う中村助教（左から2人目）＝5日、倉敷市松島町の川崎医療福祉大

### 種類増えデザイン改良 初版完成後も「進化」

川崎医療福祉大医療福祉デザイン学科と岡山市消防局で共同開発した災害対応ピクトグラムは、3種類の初版が完成した後も「進化」を続けている。

は「歩いてこちらへ」の簡易版を新たに設けた。用途も広がっており、19年に日本各地で開かれたラグビーワールドカップの一部会場、岡山市であった20万国・地域（G20）保健組合会でも配備された。